



# 新しい時代にふさわしい コーチングスキルをゲットしよう！

桐蔭横浜大学 渋谷ゼミチームB

○折尾 莉奈 小林 侑平 桑原 徳玖 武井 友紀

# はじめに

緒言

課題の定義

調査目的

調査方法

調査結果

考察

提言

まとめ



# コーチングスキルとは

対話を重ねることを通して、選手が**目標達成に必要なスキル**や知識、考え方を備え、行動をすることを支援するプロセスである。

# 現状

緒言

事例：2018年

[体罰] 1月 F市の市立中学校  
男子バスケットボール部左手中指骨折

[熱中症] 7月 O市の市立中学校  
男子テニス部校舎周り80周

…等

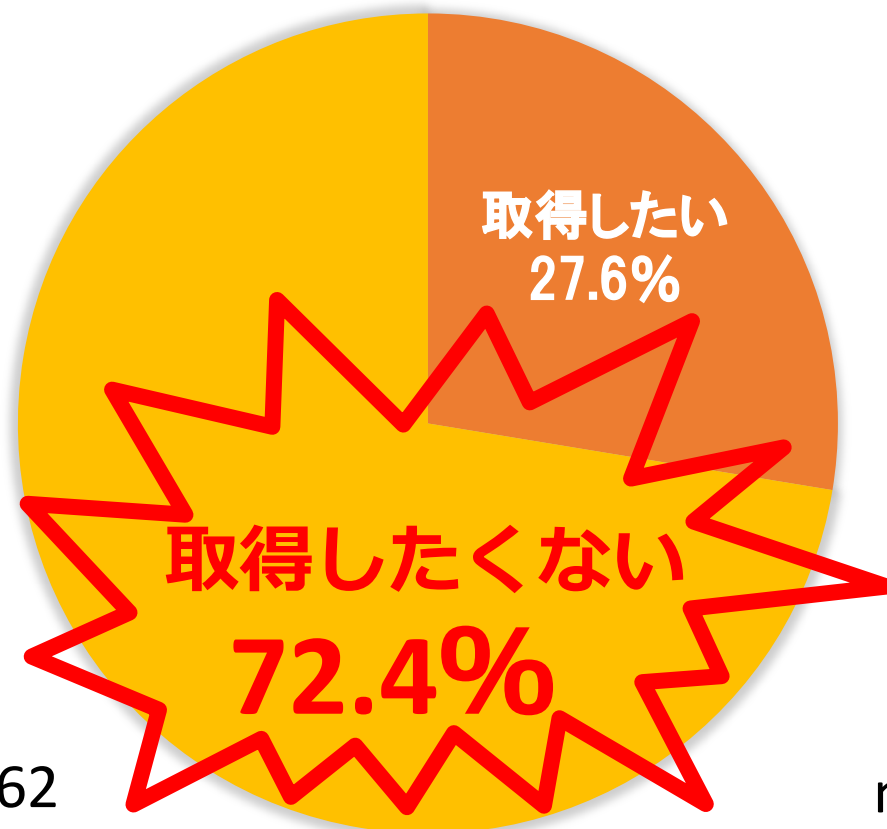


A large, bright yellow starburst graphic with a thick orange outline, centered on a white background. The starburst has multiple sharp points and is the primary visual element of the slide.

事故が後を絶たない！

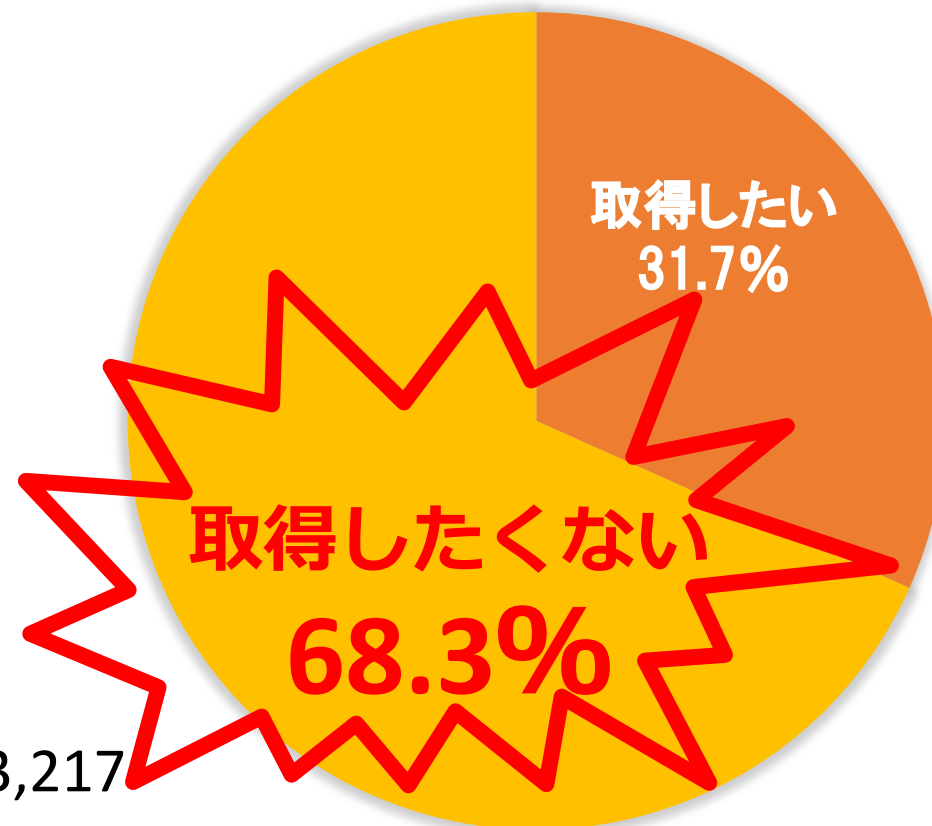
# 指導者資格の取得意向

## 【中学校】



n=3,262

## 【高等学校】



n=3,217

図1 学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書(日本スポーツ協会,2014)

# 【指導者の暴力行為を目撃した経験】

緒言

【暴力行為を受けた経験】

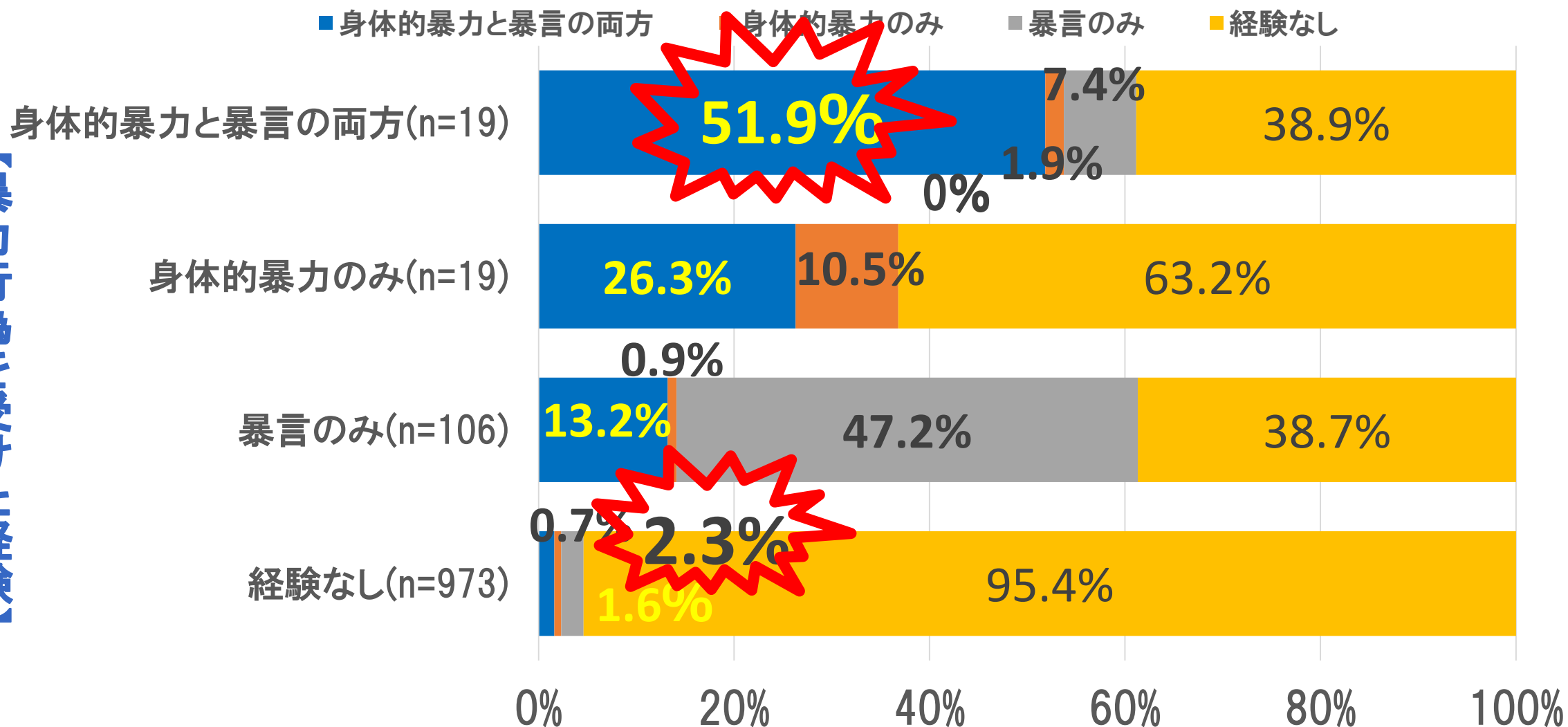
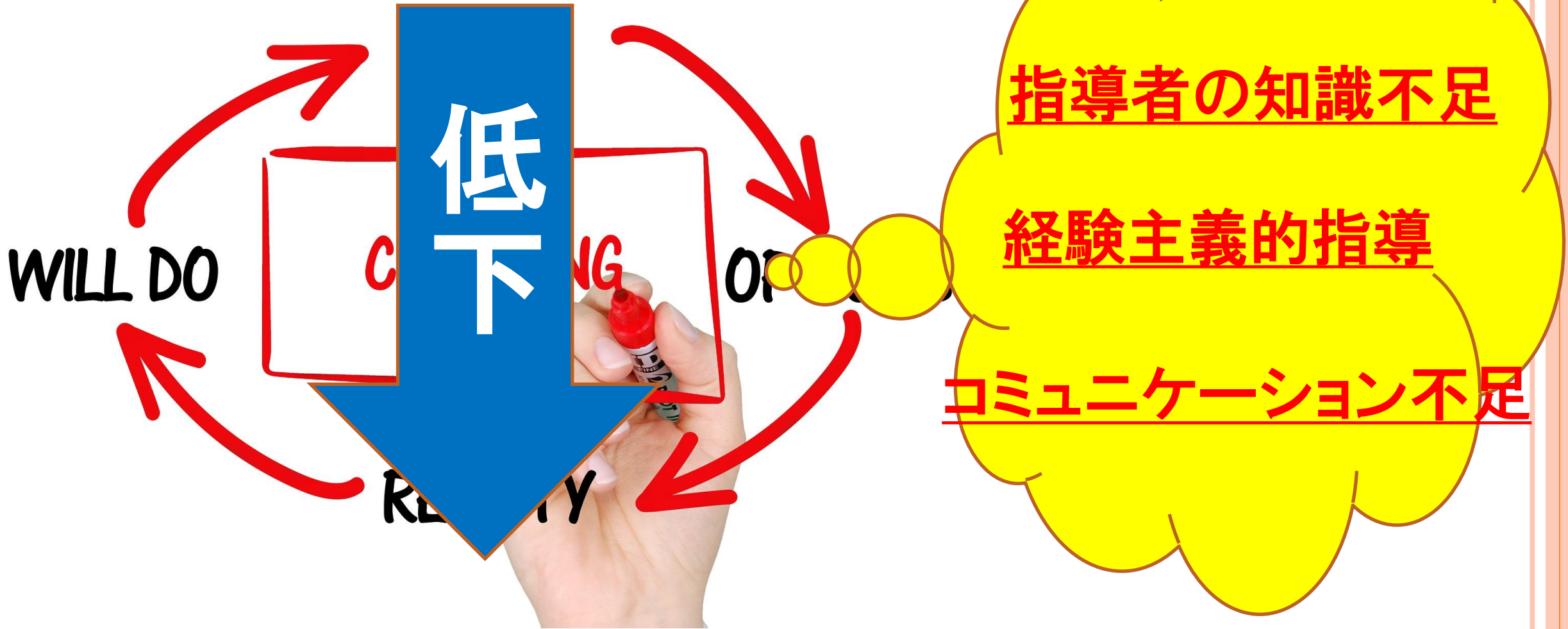


図2 指導者から暴力行為を受けた経験と目撃体験  
(笹川スポーツ財団スポーツライフデータ,2013)

# 問題

# 課題の定義





# 体罰や重大事故の背景

伝え方・水分補給の声掛け



やる気

低下

怪我・重大事故

**コミュニケーション不足**



# 目的

## 調査目的

「選手指導者間のコミュニケーション不足」への対策として

コミュニケーションの内容

コミュニケーションの現状

コミュニケーションの高め方

## ア. 文献調査

### 調査内容

コミュニケーションスキルの内容、選手指導者の現状・効果、高め方。

### 調査時期

平成30年6月下旬から10月上旬まで。

## 方法

### イ. インタビュー調査

#### 調査対象者

K県私立大学、高校の運動部活動の指導者5名。

#### 調査内容

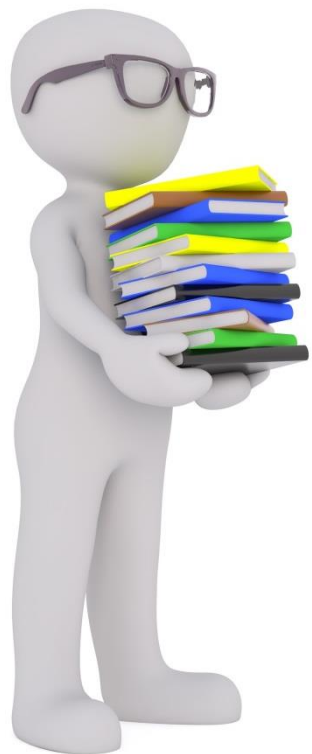
- ・氏名、年齢、性別、担当競技、指導歴、競技歴。
- ・コミュニケーションスキルの内容、選手指導者間の現状、高め方。

#### 調査時期

平成30年9月下旬から10月上旬まで。

# 文献調査の結果

## 調査結果



内容

メッセージを受信・伝達する能力

現状

選手の観察を行うことに重要視していない

高め方

選手個々がまず主張し、理解し合うことを促す取り組みを行なう

# インタビュー調査の結果

調査結果

① 20代〜30代前半の指導者

内容

- ・選手に技術を教える上で絶対的に**必要な能力**
- ・他人を**理解する力**

現状

- ・**メリハリ**があるような指導を行っている
- ・積極的に**監督から**話しかける

高め方

多くの**選手と接し選手といる時間**を増やすこと

# インタビュー調査の結果

調査結果

②  
30代以上の指導者

内容

- ・問題解決
- ・結果を予測する力
- ・伝える能力
- ・自己主張ができるようになる

現状

- ・技術の指導ができる
- ・厳しく指導している

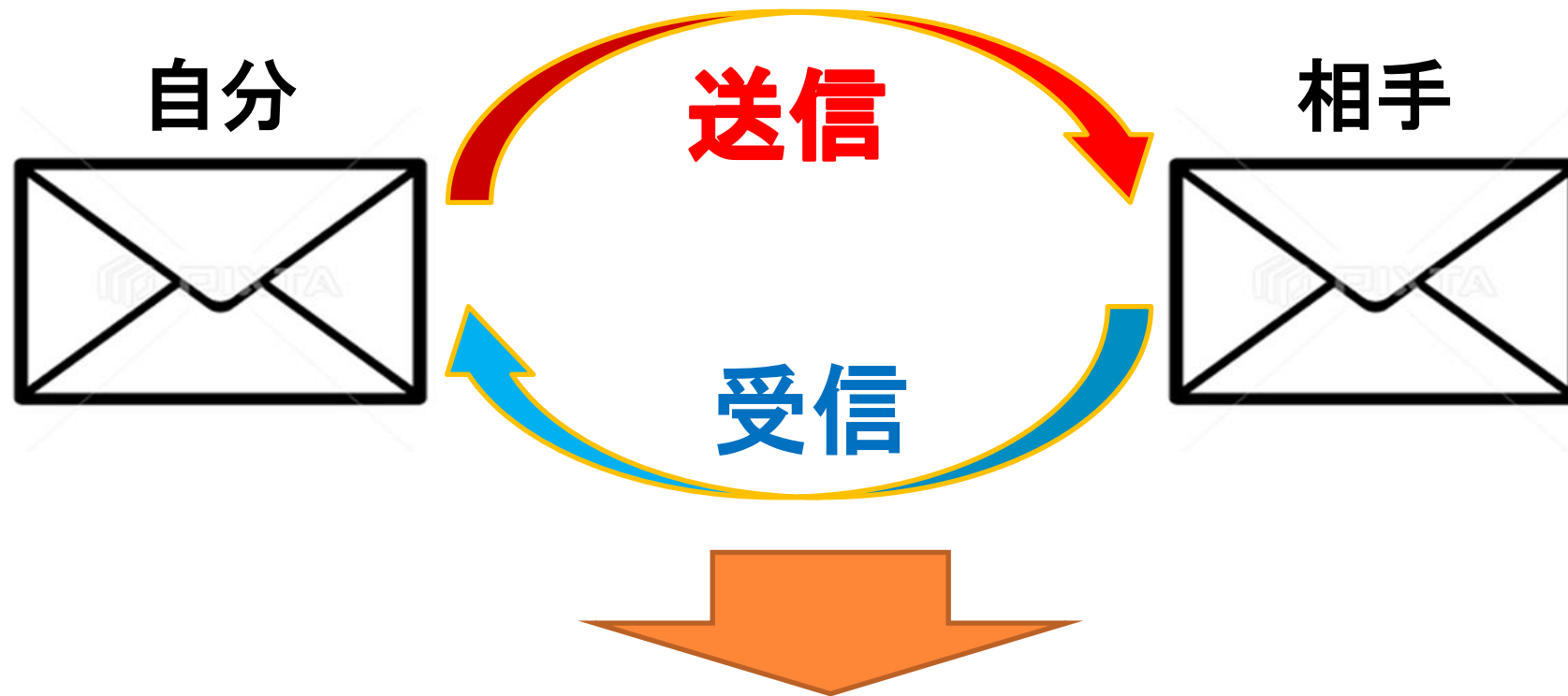
高め方

- ・プレーをする上で勝手に高まっていくものである
- ・個々の性格を理解し、伝え方を変える



# コミュニケーションの内容

考察



問題解決や他人を理解する力

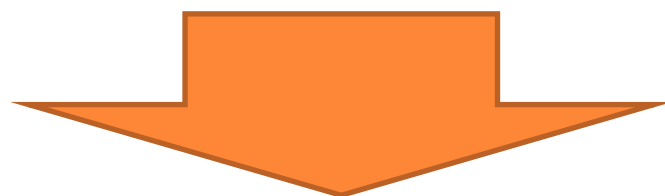
# コミュニケーションの現状

考察

練習や学校生活で  
観察することに重要性  
を感じていない。

技術だけでなく  
ライフスキルも考  
えて指導している。





現実と理想でギャップが生じる

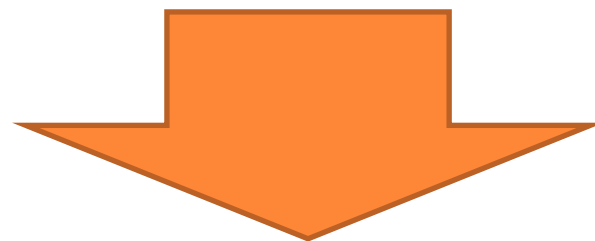
# コミュニケーションの高め方

考察

投球練習をしたい！

打球練習をしてほしい！



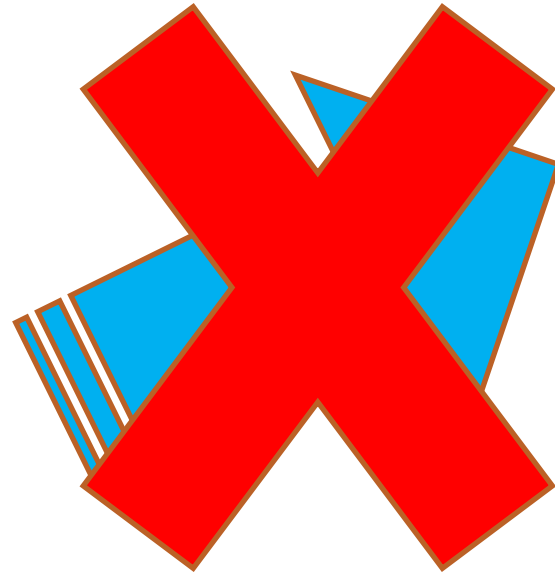


指導者から一方的に話しすぎると  
選手の主張力の低下につながる。

考察から...

考察

現状



理想



どうすればいいのだろうか???





# 課題解決に向けた政策

I. 指導マニュアルの作成



II. 研修プログラムを開講

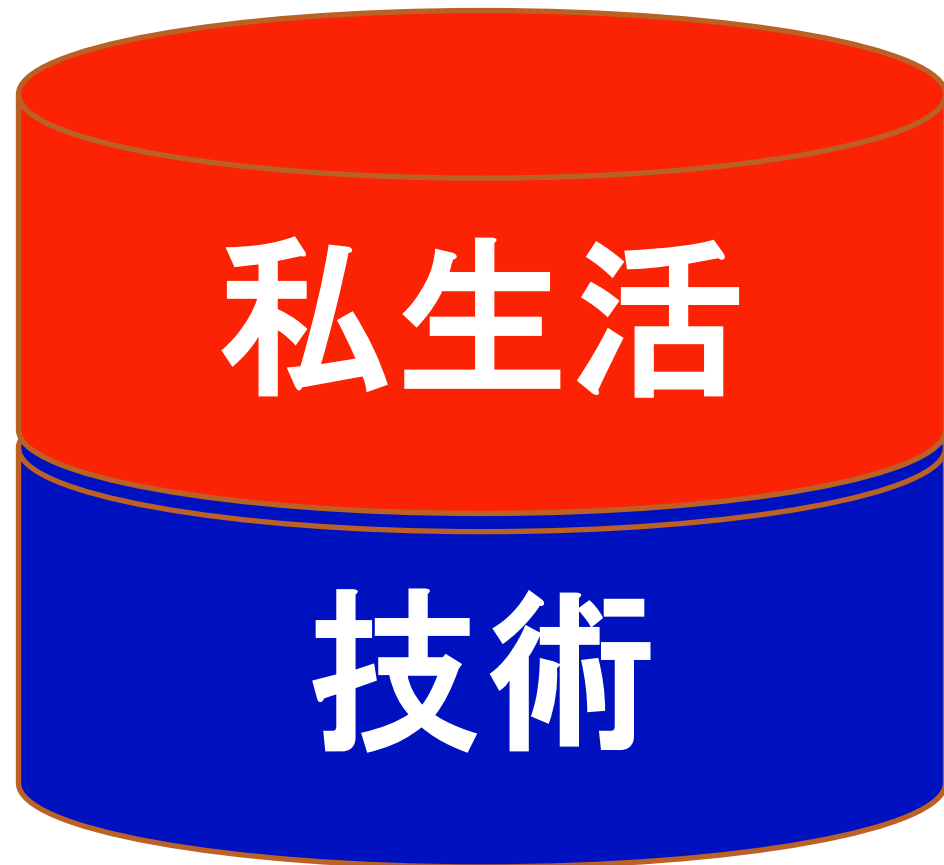


# I. 指導マニュアルの作成

① 指導者の観察力の向上

② 選手とのコミュニケーションのとり方

①指導者の観察力の向上



選手の  
社会性を向上

ライフスキルを  
身につけることができる！



## ②コミュニケーションのとり方



打球練習を  
しないで!

投球練習が  
したい!!!





# 選手の主張力が向上する



## Ⅱ. 研修プログラムを開講

3ヶ月に1回、各地方でコーチング専門家を講師として研修会を開催する



参加

研修会

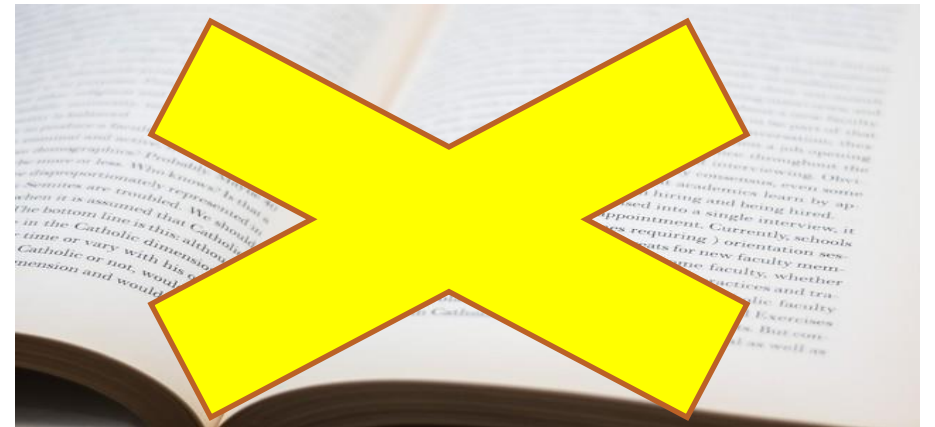
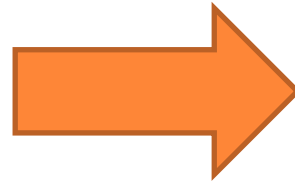
指導マニュアル  
を使用

指導マニュアルの理解  
を深めることができる

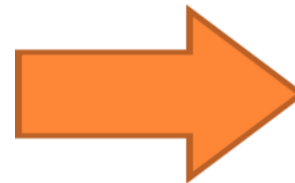


# 今後の課題

I. 指導マニュアル



II. 研修プログラム





A man in a dark suit and light blue shirt is holding a white document. The background is a blurred blue and white motion blur. A large, bright yellow starburst graphic with a brown outline is centered over the image, containing the text.

**コーチングスキルをゲット  
することができる！！**

## 〈参考文献〉

江田香織ほか(2017) グループ箱庭体験を通じたチームの再建過程。スポーツ心理学研究44(1):33-51

笹川スポーツ財団スポーツライフデータ(2013) 部活・サークル活動に関する調査。

町田友矢(2016) スポーツ指導者に必要な能力。

日本スポーツ心理学会(2005) スポーツ心理学事典。



ご静聴ありがとうございました。